

光の子



No.157 2013.1.1

●年間聖句 あなたの口を開いて弁護せよ。ものを言えない人を、犠牲になっている人の訴えを。(箴言3 1章8節)



明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉法人 光の子どもの家

「新春」

挿絵・中島由起子

「こころはいつも笑ってる」

初御空あつまつて来る子等の声

花びらのごとき一睡嬰の春

少年の意志のかがやき竜の玉

福寿草こころはいつも笑ってる

ぐしゃぐしゃに描きたる線や空つ風

色どりの違う姉妹や春隣

雪だるま光の子らの仲間入り

鎌田 洋子

新年を迎える

理事長 菅原哲男

謹賀新年。
昨年中は大変なお支えとお励ましをいただき、心から感謝いたします。

昨年は、刀川和也監督制作の「隣る人」の公開が最大の出来事だった。

5月中旬から東京東中野ポレポレで7週間のロングラン、その後、大分のシネマ5で地方公開が始まり、実にたくさんの人々がこの映画を見て下さった。映画の内容は、光の子どもの家の日常を丁寧に撮りためたドキュメンタリーである。何のことはない、光の子どもの家の暮らしの風景をたくさんの方々に見ていただいたということである。児童養護施設の暮らしの隅々までを描いた映像はこの国で初めてだろう。

2003年に上梓した拙著「誰がこの子を受け止めるのか」という、光の子どもの家開設以来約20年にわたる記録が世に出て、評論家の芹沢俊介が週刊朝日の書評で取り上げたのをはじめとして、何冊かの著作やあちこちでの講演などで取り上げて下さった。
芹沢俊介の著作を読んだ刀川監督が芹沢に相談をして、筆者に回

つてきたものだった。

最初に手紙が来た。「誰が……」を映画にしたいというものだった。人の暮らしなどが映画になったとしても、見に来るものなど居ないだろう、それよりも作品などになるはずがないと思いい、そのままにしておいた。しばらくして刀川から電話で会ってこれと催促された。仕方なく会い、好きなようにしたい、しかし、子どもや職員がいやだといったら止めるようにとだけ言っておいた。

何日持つか、などとタカをくつていたら8年も居続けたのである。撮りためたビデオ600時間あまり。その中から厳選して繋ぎ、作品にしたのである。作品になるには2007年に刀川が会場だったミステリー評論家で、この映画の企画を担当した稲塚由美子の力があつた。稲塚は言う。何だか分からないようなぐちゃぐちゃした暮らしには大きな力があるのだ、その暮らしの中で大人も子どもも生きて育ち、更によりよくなるよう願うのだ、と。

映画「隣る人」には何の変哲もない暮らしが描かれているだけである。朝起きて食卓を整え、みんなで食し、出かけ、学び、働いて

帰ってくる。そしてまた食卓に着き、風呂を使って寝るなどである。

このような暮らしの積み重ねが、人と人との関係を創りあげていくのである。丁寧な暮らしの営みこそがかけがえのないものだったのである。

先の敗戦以来、私たちはなんと多くのかけがえのないものを売り渡してきたことだろう。暮らしの中心をなす食卓のほとんどをスーパーに委ね、父の役割のほとんどを商店が賄う。暮らしを商品に換えてきた半世紀あまりである。今、普通といわれる家庭の中に、かけがえのないものがどれだけ残っていることだろう。普通の家庭が子どもを抱えきれず施設に差し出し続けている。

家族関係は血縁による、と言われる。家庭の最も中心をなす父母は血縁関係にない赤の他人である。それが共に暮らす中で血縁を超えるような関係を形成するのである。笑い、怒り、喜び、泣く……そんな繰り返しと、手をかけて食卓を整えて囲む。そんな愚にもつかない日常こそが力を持っていることを、この年も子どもたちと確認していこうと思っている。

「共育ちカンガルー日記」

(22) ユキ語の魔法

近藤みちる

ユキが5歳になった秋のこと、私は初めてA園の言語聴覚士の先生の個別相談を受ける機会を得た。放課後の教室で無心に遊ぶユキの様子をしばらく眺めて、先生は言った。

「ユキちゃんは生きた言葉話していますね。自閉症と診断を受けたと言っても、これだけ生きた言葉を話し、コミユニケーションの力が伸びているのは、すごいことですよ。」
そう言われて、私はユキがいつの間にかおしゃべりの好きな女の子に成長していたことに改めて気づいた。

「あれ？おかしいなあ」「いっしょにやろう！」

「はんぶんこすると、おいしいねー」
最近、こんな可愛いおしゃべりが一日中聞かれる毎日だ。2歳で自閉症と確定診断を受けた頃のユキは言葉はおろか視線すら合うことのない、通じ合えるものが何もない子であった。私はふと、ユキと歩んだ5年間の日々を思い起こしていた。
「先生、私はユキ語がしゃべれるんです。」
ユキは赤ちゃんの頃から、私を日

で追うことも、声に反応することもほとんどなかった。笑いかけても話しかけても視線が合うことさえなく、まるで風のようにユキを素通りしていくだけだった。母子とは名ばかりで、何ひとつ通じ合えない無力感、そして不安と焦り。まるで出口の見えない真つ暗な長いトンネルの中に、ユキと二人きりで取り残されているような、絶望的な毎日だった。

「ユキ語」と命名したのはパパだ。それは、その真つ暗なトンネルの中でユキと私が育んだ魔法のような言葉だった。
普通の赤ちゃんと母親は「あー」とか「おー」などの喃語で互いを呼び合いながら気持ちをやりととりし、やがては言葉でのコミユニケーションが育まれていく。だが、このころユキは喃語も出さず、大人のしゃべり声を極端に嫌がり、声かけを一切受けつかなかった。

ユキ語の始まりは歌だった。話し声は嫌がっても、歌を歌ってやるとじつと耳を澄まして聴いてくれた。だから私は、一日中歌を歌っていた。そのうち、大人の会話の中の「くた

くた」とか「ころころ」などの擬声語に敏感に反応を示すようになった。私は何でもかんでも擬声語に置き換えて語りかけた。並みのあやし方では無反応なユキが、これでもかというくらい面白い顔をして声色を作ってみせると、声を出して笑ってくれようになった。私はお笑い芸人さながらに、ひょうきんな顔と声を作ってはユキを笑わせようと躍起だった。ただひとえに、ユキと気持ちを交わし合いたい、分かち合いたい一心だった。

そんな毎日の中で、やがてユキはたくさん歌を覚えていった。お気に入りの擬声語が増え、自分から声に出すようになった。私に面白い顔や声色を催促するようになった。ユキに伝えたいことは、ミュージカルのように即興の節をつけたり、替え唄にしたりすることで、すんなりと伝わるようになった。それはまるで魔法のように、ユキと私と心を繋いでくれた。私達はいつの間にか、真つ暗なトンネルから抜け出していった。

「そうでしたか。ユキ語でおしゃべりしていたんですね。母さんの「ユキちゃんとかち合いたい」という思い、それがコミユニケーションの力を育てたんです。」
必要なことは、いつもユキが教えてくれた。私はユキを見失わないように、ただひたすら、手を離さずに

共に歩んできただけだった。それがトンネルの出口へと続く唯一の道程であつたことを、このとき気づいたのだ。

最近のユキは、好きなアニメの台詞などを丸暗記し、そこから場面に応じて引き出しから取り出すように言葉を話している。言い回しや口調はアニメ調だったりもするが、そこにはユキの気持ちが込められていて、先生の言う「生きた言葉」に育ってきている。日常生活上の必要なやりとりや簡単な要求、暑い寒い、欲しい、いやなど意志は、自分の言葉で伝えられるようになった。ユキ語の通用しない園の中でも、今ではほとんど支障なく過ごしている。

もちろん家の中では、まだまだユキ語は健在だ。どんな時でも、ひとたびユキ語を口にすれば、私達にはたちまち笑顔が溢れ、幸せな気持ちで心が満たされる。

でもいつの日か、ユキがユキ語を必要としなくなる日がやってくるだろう。そのときユキ語は魔法を失い、ユキはユキ語を忘れてしまうかもしれない。それが成長というものだ。そして私はまたしても、成長目覚ましいユキに、置いてけぼりを喰ってしまいうに違いない。

エッセイ

オトカに化かされた

彫刻家 中島 陸雄

本棚をかきまわしていたら、おもしろい本が出てきた。

「オトカ(狐)に化かされた話」という百ページくらいの本である。10年も前だったろうか、町の郷土史クラブの人たちが編集をし、教育委員会が発行したものである。30人ほどの人たちが、自分の体験や言い伝え、或いは何種類かの民話や伝説などの文献を参考にしながらまとめたものようであった。

表紙には、狐の嫁入りの絵が、おどけた姿で描いてある。

その中には、50話くらいの話がまとめてあり、そのタイトルを見ただけで読みたくなってくる。

「オトカ火」というのが目についた。私も子どもの頃、それらしいものを見た覚えがあるから。この本の中では、昭和8年から9年頃のこととして書かれている。

※ 初秋の気がただよい初めると、

毎夜のようにオトカ火が明滅しました。水門橋の方からチラチラと田んぼを越えて上流の方へ進みます。「今夜も水門橋の方からオトカ火が来るよ。」お年寄りがそう言います。

オトカ火。私にはそれが信じられませんでした。今どき狐火とかムジナ火とか、そんなものがあるもんか、迷信にきまってる。そう思っているうちに、ポーンと灯った光が二つ進んできます。……

光はパッパッと、ついたり消えたりしながら進んでいます。その光は、自転車の光とは違って明滅しています。

お年寄りは「ほら、目を細めてよく見てみる、自転車にはうしろにも光があるが、オトカ火にはそれが無いよ」と教えてくれました。火が開田の中ほどまで来たとき、二つの光は、いつの間にか四つ五つに増えていきます。稲の上の方では、高くなったり低くなったり。

光はかなり明るく、三百メートル程離れた私の家から見ても、十センチくらいの大きさに見えます。

その頃、静かな夜には、こんな光景がしばしば見られました。

オトカ火など信じない、そう言った私も信じないわけにはいかなかった。オトカ火火なのでしょう。

※ また別な話。

農家では、自家製造のし尿や、集めたし尿を貯蔵する施設として、畑の隅に、桶や大きなカメを埋めた、いわゆる肥溜(コエダメ)とか大溜(オオダメ)を削って溜めておきました。一時貯蔵施設であると同時に、し尿を完熟させるための施設でもあったわけです。

明治のころの話です。親類の母屋ごわしの手伝いにいった寅さんは、一杯ごちそうになって、ほろ酔い機嫌で家路につきました。途中で、どうしたとか、川に落ちてしまいました。「オオ深い、オオ寒い」と思いながら川の中を歩いていました。「早く家へ帰ってひとつ風呂浴びよう」と考えながら歩いているうちに、ちょうどおあつらえ向きに風呂場へ着きました。「やれやれ助かった。」そう思った。

って風呂につかり、ゆっくりこごんでいました。

近くを通りかかった人が驚いたように、「あれ！なにしてんだい？」

その声に寅さんは、ハッと気がつきました。あたりを見まわすと、畑の中の肥溜めに首までつかっている自分に気付いたのです。

「なあんだ、オトカに化かされたんだ。臭い、臭い」と寅さん。なるほど臭いの臭くないの。寒いのでさむくないのって。

※ 今まで、何でこの匂いがしなかったのか不思議でした。

※ すべてのことを科学的に、合理的に説明しようとする現代に於いては、これらのことは、なかなか説明しきれないものかも知れない。子どもの頃の私も、古利根川の自然堤防の向こうを、東に進むら、6個のオトカ火を見たことがある。あれは、言い伝えられた話を、私の心の中に作りあげただけだったのだろうか。

いずれにしても、現代の狐、オトカたちは、人間を化かす能力を完全に失ってしまったようである。

正月雑感

山形大学前学長 仙道 富士郎

昨年私は私にとってエポックメイキングな年であった。高校を卒業して以来経験したことのない規則正しい日常生活を送ったのである。というのは、昨年4月老健施設に勤務するようになって、生活がすっかり変わってしまったのである。

まず上手に睡眠が取れた日の朝は4時半に起床する。布団の中で小一時間ストレッチをして、やおら起き上がり、立つて行う残りのストレッチと怪しげな腕立て伏せ40回を終える時には、ほぼ6時ころになっている。

二人分としてレモン2個を絞って、カゴメの

「野菜生活」に加えてジュースを作り、食パンを2枚焼いて、バターを塗り、インスタントコーヒールを牛乳を加えて、電子レンジで温める。これが我が家の朝食の定番である。コーヒールが沸いたところに

は、奥さんが起床してきて朝食となるが、起きてこないときは「朝ごはんですよ」と起こしに行く。

彼女の名譽のために言っておくと、彼女は宵つ張りで12時すぎまで起きていることが多い。それに反して、私は早く寝て、早く起きる習慣が老化とともに身につけてしまった。要するに、二人の生活時間が全く合わないのである。彼女にとつては早い朝食を摂らされるのはいい迷惑なのである。

朝食を摂り終わって、8錠の薬を飲み、顔を洗い終わる頃には7時になっており、その日に着用する背広、ワイシャツ、それに合うネクタイを選ぶ。NHKBSテレビの朝の連ドラ「純と愛」は、背広を着た状態で観て、その間に奥さんの淹れたお茶を2杯飲む。2杯飲むのは、亡くなった母が「一杯茶は縁起が悪い」と言っていて、お茶を飲むときは必ず2杯以上飲むように命じていたので、母が亡くなってもう20年以上も経っているのだが、律儀に教えを守っているのである。

「純と愛」を見終わったらすぐに車を始動し、勤め先の老健施設「みゆきの丘」に自動車を走らせる。到着したら、自動販売機でミネラルウォーターを買い、「朝の

一杯」の水を飲みながら、パソコンを立ち上げ、朝のミーティングに備える。「朝の一杯」の水は、血液を薄めて、脳梗塞や心筋梗塞を予防する常套手段の一つと言われている。

私の勤務している「みゆきの丘」は、全体で800人以上の職員がいる「みゆき会」という大変大きな組織に属しており、8時20分から始まる朝のミーティングでは、まず「みゆき会」に属する各組織の前日の入所者数、病院であれば入院患者数や外来患者数が報告され、次にはその日の行事が発表される。この一連の流れの司会を施設長の私が行う。一連の報告が終了すると、私が「今日も一日(週明けの月曜には、今週二週間)がんばって行きましょう。よろしくお願ひします」と発声し、皆が「よろしくお願ひします」と呼応する。

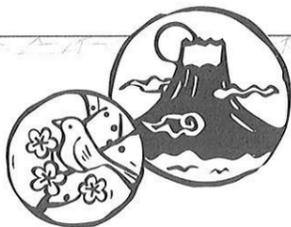
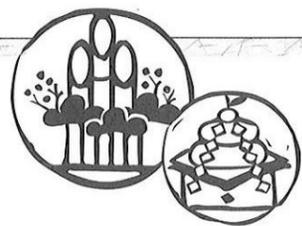
なにもなければ、以上の出来事が毎日、時間通りに繰り返される。私の過去を知っている人は、これを読んでおそらく笑いだすのではないかと思う。事実なのである。我ながら随分変わったものだと思うが、最近、「少し疲れるなあ」と思うこともあるが、そんなに苦になることはない。エポ

ックメイキングと言っても、大げさすぎないと思いませんか。去年から変わったことはもう一つある。年末年始を温泉で夫婦で過ごすことにしたのである。

一昨年末までは、正月には子どもたちが孫を連れてたくさんやってきて、妻と私は、暮れには正月料理作り、正月には酒盛りの相手(これは妻に当てはまることであって、私はただ子どもたちと一緒に酒を飲みまくるのだが)で、正月明けには、妻は仕事疲れ、私は飲み疲れでクタクタになっていたのである。

昨年は、ネットで近郊の安い温泉宿を見つけて、大晦日から正月の2日まで、宿泊した。子どもたちにはその旨をあらかじめ伝えて我が家への来訪を封じたのである。なんとも冷たい親であり、おじいちゃん、おばあちゃんではある。

今年も全く同じことをやった(というのは嘘で、この原稿を書いたためているのは、12月11日だから、その予定である、というのが正しい)。妻は子どもたちのことを気遣って、ちよつと迷いを見せたが、私が押し切った。早く死ぬ親が大事なのである。



明けましておめでとうございます

謹んで新春のお祝いを申し上げます。皆様方よりの熱き祈りとお支えにより、子どもたちと共に新年を迎えることができず幸いを、心から感謝申し上げます。

新たな気持ちで28回目の新年を、幼児5名・小学生16名・中学生8名・高校生7名・自立支援中の卒園生4名、そして職員23名と共に迎えることができました。

昨年は、タイガーマスク現象を契機として十数年来改正のなかった最低基準の見直しを検討され、職員配置の改善がなされました。そして、本年4月より子ども・子育て新システムの議論の中で、児童福祉施設最低基準が各地方自治体の条例として施行されることとなります。今後ますます地方への権限委譲が進められていくことが予想されます。地方財政によって受けられるサービスの質が違ふことの無いように、また、地方間格差に繋がらないようにと願います。制度や政策が、全ての子どもたちの基本的な人権や最善の利益を保障するものであつてほしいものです。

今後ともお支えとご指導をよろしくお願い申し上げます。新しき年も皆様方のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

施設長 田中 郁夫

今年もどうぞよろしく願ひいたします。

工藤 久恵

新年明けましておめでとうございます。職員として初のお正月を迎えることができました。昨年は子どもたちとの思い出作りは半年間しかありませんでしたが、本年は一年を通して思い出をたくさん作りたいたいと思います。これからも光の子どもの家を宜しく願ひいたします。

新吉屋 健太

明けましておめでとうございます。寒い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

「趣味は読書」と言い切れるくらい本を読むと昨年の挨拶で言わせて頂きましたが、言うのは簡単ですが「継続する」と言うのは難しかったです。ただこんな私にも光の子どもの家に来てから一つだけ継続出来ていることがあります。それは「子どもたちと遊ぶ事」です。だから私の趣味は「子どもたちと遊ぶ事」です。

今年一年も皆様のご健康を祈って、新年の挨拶とさせていただきます。

田中 要一

新年明けましておめでとうございます。これからの新たな日々の方角が「光の子らしく」あり続けられますようお祈りください。

お名前も顔もわからない多くの皆さまにも、応援していただいていることを忘れず歩みたいと思います。

様々なことと出会いますが、ひとつひとつがいつかは子どもたちの笑顔と自信につながることを願って、共に力を合わせてまいります。どうぞよろしくお願ひ致します。

副施設長 竹花 信恵

新年あけましておめでとうございます。今年も子どもたちと泣いたり笑ったりしながら、一緒に歩いていきたいと思ひます。皆様にとつても良い年でありますように。

池田 祐子

あけましておめでとうございます。いつも様々なご支援ありがとうございます。

年々、時の流れを速く感じるようになりなりました。あつという間の一年の中で、少しでも多くの思い出を子どもたちと共有できるようにしたいと思ひます。気持ち新たに、今年も何気ない日常を大切にしていきたいです。今年もよろしくお願ひいたします。

牧野 由紀子

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。旧年はお世話になりました。

光の子どもの家も皆様のお陰をもちまして、無事に28回目の新年を迎えることができました。子どもたちも皆様のご支援を受けてすくすく育つております。子どもたちに負けないように、より一層の努力をしていきたいと思ひます。今後ともかわらぬご支援とご指導をよろしくお願ひいたします。

福島 文明

あけましておめでとうございます。昨年も大変お世話になりました。ありがとうございます。

新しい年に向かい、益々一日一日を子どもたちと共に大切に生きていきたいと思ひます。

五木田 供三

明けましておめでとうございます。皆さまにとつても、子どもたちにとつても幸多い年となりますように。どうぞ今年もよろしくお願ひいたします。

積 みどり

新年明けましておめでとうございます。昨年中も大変お世話になりました。感謝しております。

あけましておめでとうございます。昨年は皆様のご支援のおかげで、子どもたちと毎日楽しく過ごせました。ありがとうございます。こうして新年を迎えられることを嬉しく思ひます。「寒い、寒い」と言いながら外を駆け回る子、テレビを見ながら干し芋や蜜柑を味わう子など、様々な正月を満喫している子どもたちと職員です。この少し騒がしくも、笑顔溢れる時間を大切にしていきたいと思ひます。本年もよろしくお願ひ致します。

和田 優右子

新年明けましておめでとうございます。今年で2年目となりました。もう新人ではないので、自分のことだけで精一杯とならずに、子どもとの関係を深められるように努力します。まずは、子どもよりも先に泣かないようにしたいです。

細瀬 野宜江

明けましておめでとうございます。2012年は、わたしが光の子どもの家で迎える初めてのことがばかりの台風のような毎日と、台風一過のようなキラキラした晴天の日を繰り返す、笑いの絶えない一年でした。

新年を迎え、更なる台風と晴天を期待し、光の子どもの家にいられる喜びを、日々かみしめていきたいと思ひます。

子どもたちがおやつを食べるとき、外で目一杯遊んで冷たくなった手は、水で洗うことでもっと冷たくかじかんでいます。暖かい部屋で待っていたおばちゃん、温かい手で冷たくなった子どもの手を包んでから、一緒におやつを食べます。

「おやつも大切な栄養。心にはもっと大切な栄養を」と、今年一年も子どもたちと一緒に歩みます。

平川 光子

明けましておめでとうございます。旧年中はあたたかいご支援をたくさん戴き、本当にありがとうございました。子どもたちは大きな病気も、ケガもなくスクスクと成長しております。あまり得意ではない(?)勉強も、職員とともに頑張る姿が見られます。こうした環境の中で生活できるのも、皆さまのご支援があればこそと感謝申し上げます。

これからのどうぞよろしくお願ひいたします。皆さまにとつても、よいお年になりますように。

梅田 由味子



プ・リ・ズ・ム

子どもたちの季節 仙道家

あけましておめでとうございませす。今年もよろしくお願いたします。年男として過ごした2012年、昨年度末で光の子どもの家に来てからちょうど10年が経ちました。色々な意味で節目となる年と思ひ、4月から新たな10年をスタートするつもりで過ごして参りました。

『まずは体調管理から』ということ、ライメンとビールで弛んだお腹を引き締めるために4月からウォーキングを始めました。最初は5kmくらいから始めて徐々に距離を増やし、そのうちジョギングに転向し、と進めていくと、走ることが大嫌いで大の苦手だったこれまでの自分が嘘のように、いつの間にか走る事が心地良いと思えるような体(心)になっていました。

走っていると時間の貴重さに気が付き、普段感じないような充実感を得られます。土手などを走っている時などは少し大げさですが



小西 剛史

『自分は地球にいるんだ』ということを実感でき、気持ちが悪くキリ前向きになります。なので最近は自身を振り返りたいときや考えがまとまらないときには、走るときに考えるような心がけています。より良い働き手となることを目指して、これからも走り続けていきたいと思ひます。

光の中で

佐藤家

明けましておめでとうございませす。昨年は大変お世話になりました。今年もどうぞよろしくお願ひします。私が担当している子どもたちも一年を思うと、とても大きく成長



岩瀬 志穂

してくれたいと思ひます。年齢が高くなるにつれて色々なことを思い、考えられるようになってきます。それぞれの家族についてよく話してきたり、質問してくることが増えてきました。それは当然のことだと思ひます。『お母さんはどこにいるの?』『ぼくのパパはね。』など想像を膨らませて、嬉しそうに話します。小学校や幼稚園で他のお友達のお友達の両親、いわゆる『家族』を目的にしたりして、『お友達に『なんで岩瀬さんと苗字がちがうの?同じじゃないじゃん!』って言われた。』など、本人なりに自らについての矛盾を感じているのだと思ひます。



原田家日記

明けましておめでとうございませす。昨年は皆様からのご支援に感謝し、新しい年も健康が守られ恵み豊かな年になりますようにお祈りいたします。

高校受験まであとわずかになった達貴。ようやく志望校も定まり『いざラストスパート』と行きたいところですが、なかなかそう上手いようにはいきません。「勉強から逃げない」と目標を掲げ、気持ちが折れないように励ましてきました。なかなか勉強に向き合えない達貴に対し苛立つこともありましたが、夕方毎日の日課のようだった野球をやめ、短時間ではあります

が勉強に取り組みはじめました。受験まではゲームはやらないと宣言して自らゲーム機を預けてきました。少しずつではありますが受験生としての意識が出てきたと感じております。そんな達貴は先月誕生日を迎え、盛大に誕生会を開きました。たくさんの方からお祝いのメッセージを頂戴しました。「受験頑張つて」は当然のごとくありました。多くの方が「人のことを気遣うことのできる」「小さい子どもたちに優しくできる」と励ましてもらいました。人間的には確実に成長をみせている達貴ですが、あと3ヶ月で最大の目標である高校受験に立ち向かい、4月からは志望校で大好きな野球を続けることができるように伴走していきたいと思ひます。

穴水 祐介



季節のおとずれ

竹花家

新年明けましておめでとうございませす。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

お正月になると、普段は離れたところで暮らしている卒園生たちが大勢集まります。彼らが光の子どもで暮らしていた頃に関わった職員はもちろん、その頃にはいなかった職員も一緒に飲んで食ったり、ワイワイと盛り上がりがあります。私の場合も、私と同じ歳くらいの卒園生たちと夜遅くまで遊ぶことがしばしば。そんな時にいつも思うのが、今いる子どもたちとの関わりについてです。

目の前にいる子どもとの関係は、その瞬間で完結するものでは決まてないのです。連続と続く光の子どもで暮らす日々、またここを卒業してからの人生のほうが圧倒的に長いのに、目の前の子どもに対して私は「ここでこの子を何とかしなければ」などと、出来もしないことを考えてしまいます。

成長するにつれて思ひがけない変化を見せてくれる子どもたちです。子どもたちが持つ成長、発達しようとする力を信じて関わるこ

とを意識しようと思ひます。でもまずは、このお正月を存分に楽しみたいと思ひます。

鈴木 洋一



河のほとり

倉澤家

新年明けましておめでとうございませす。旧年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひ致します。

以前は担当の子どもが全員正月帰省してしまい、私一人が子どもに家に残されたこともありましたが、現在は正月帰省する子はほとんどなく、元旦の食堂はとてにぎやかです。それに加え、卒園生、卒園生の家族が集まり、食堂は破滅状態!テーブルにイスがひとつ、またひとつ...と増えていき、トイレに行くのもひと苦労という有様です。でも、その寿司詰め状態の食堂が、光の子どもの

家のお正月の風景となりました。

そして、昨年はその中に安田貴志がいました。でも、今年はずいぶん会えませせん。

昨年の11月3日、安田貴志と渡部かずきの納骨式が行われました。2人に安らかに眠ってもらうためのお墓が準備されたのです。そこは、英国風(?)の作りの墓地で、とてもすてきな所でした。芝生がきれいに植えられ、いくつもの花が咲き、天気の良い日には、2人の眠るお墓の傍らで、ピクニックができそうなくらいです。

今年の彼の命日には、倉澤家の子どもたちや卒園生たちと共に、彼の墓前に「みんな元気だよ」と報告をしに行こうと思ひます。

倉澤 智子



養育論の試み その7

お正月

菅原 哲男

あけましておめでとうございませす。いつまでも現場にいて、若い人たちの邪魔にならないようにと思いつながら、新しい年を迎えました。

今年28回目のお正月を、子どもたちとその家族、職員、卒園した者たちとその家族などと迎える。

お正月はこの年の初めての行事である。スタートの行事ととらえ、大事にしてきた。毎年、クリスマスを終えてすぐお正月の準備にはいる。

お正月に家族の元に帰ることのできる子どもは、帰ることができるよう、家庭訪問をして調整に努める。年末にお餅を携えて家に送り届けるなどしてきた。

また、光の子どもの家の内外を整えて新しい気分で元日が迎えられるようにそしんだ。元日は創立以来職員は全員が集まるようにしてきた。元旦礼拝を午前10時前後に行い、これまでの守りへの感謝と、この年の導きとを祈る。そしておせちを囲んで第一食をいただく。

く。

一年の計は元旦にあることを覚えて、全員が今年の抱負をみんなに披露する。幼い子どもには、表明すべき言葉を担当者などがあらかじめ整えておいてやる。抱負を語り終えると、施設長がお年玉をそれぞれに渡す習わしになっている。

そして後片付けが終わると、担当者や大人たちが子どもを連れて買い物やお楽しみに出かける者、こたつに入ってTVを楽しむ者などなど。2日からは、卒園生とカラオケに興じたり、普段とは違う外食に出かけたりするのである。

そして5日は、お正月気分をぶっ飛ばし、三学期を迎え撃つためのお正月最後の夕食会を、だいたスキヤキを堪能してお正月の行事を締めくくり、6日からは学校が始まったときと同じ生活のリズムに戻していくのである。

三学期は最も短い学期であり年度の締めくくりでもある。比較的短い冬休みは、クリスマスやお正月

月など、お楽しみがいっぱい詰まっている時季である。だからお正月気分を残したまま三学期に突入すると、なにやら訳が分からなくなると、なにか学期が終わってしまうような子どもが居たものである。そのようなことのないよう配慮して楽しみ、通常の暮らしへの身構えをして過ごすのである。

お正月は陸月ともいうように、家族が集まり、しばらくぶりに懇ろに関係を確かめ、この年の課題や目的を再確認し、お互いに励まし合うときなのである。

たった27年ほどが過ぎた光の子どもの家である。

創立からの十数年ほどは、家に帰る子どもが相当あって、残る子どもが寂しいほどであった。しかし、この10年ほどはほとんど帰る子どもがいない状況である。だから、お正月は光の子どもの家の人口密度は極端に上がる。帰ってきた卒園生と子どもたちが同じ部屋で寝たりもする。それが先輩後輩の関係形成にかなり力があるようである。

このことから明らかなように、我が国の家族は著しく変容してきた。家族がそれぞれ、相手のために何が出来るかを考えたりすることがほとんどなくなってしまうているのではないだろうか。自分が

しなければならぬことよりも、したいことを最優先させている。

だから自分以外の存在に心や力を遣わない。それぞれが自分の部屋を持ち、他の人の干渉を許さない。そのようにして、現代の家族は分離を促進していく。この国の家族は、利害得失、不快、性的関心などなどを暮らしの基準にしてきたのだろうか。

光の子どもの家を利用するに至った家族のほとんどが、そうであるように思われる。そんな空気を呼吸しながら育ってきた子どもたちは、それ以外の基準を知らないままに育てられてきたことになる。だから、ほとんどの子どもたちは、特にやってきた頃は、そうなるような激しい傾きを持っているのである。して欲しいことを今すぐしてもらわなければパニック状態になる、怒る、暴力をふるうなどなどである。

お正月や季節の行事にはそれぞれ意味があり、優しくあるための知恵や、美しく暮らしていくための作法などがぎっしり詰まっていたのである。それをながしろにしてきたこの国の文化を精査して、新たに作り直していくための『踏切台』としてのお正月にしてきたつもりである。それをさらに豊かに展開していきたいと願っている。

現場から 続・光の子らしく

明けましておめでとうございませす。旧年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひします。

光の子どもの家は、卒園生たちとの関わりが多いことも特徴の一つだろうと思われませす。「こんな所、二度と来るもんか!」と、啖呵を切って出て行った子どもも、何のきつかけがあったのか何年後には、そんな啖呵もそのときの気持ちも忘れたかのようなさわやかな笑顔で戻ってくるものがほとんどです。今は、「ここを出たら原宿に住むから!」帰って来ないから!

岩崎まり子

と言っている丘実にも、「いいよ。頑張るだけ頑張ったらしいよね。」

と言っています。その時、その瞬間の暴言にそれほどの悪意や決意がこもっていないことは伝わってきます。それに、大切なことは、帰ってくるかこないかではないのです。

つい先日、卒園生の加津子から電話がありました。何ヶ月か前にも電話やメールで、「もう駄目かも……」などと思わせぶりな話があったので「またその話かなあ」と面倒臭いなあ、「いつまでも甘ったれて

……」などと思いつながら電話口に出ると、「おっぱいが痛いんだけど……」

この子はこれまでも大病、手術を繰り返してきた子でしたので、「でも、いろいろあったから……」こわい。」

と、ぼそぼそ言う彼女を、「それはそうだ、それはそうだろうけど……」となだめつつ、それでも早期発見、早期治療が最も大切だと言うことを改めて、「身をもって知ってるじゃん。」

と言いつつ、しばらく黙って、そして彼女が、「……うん。……なんかウチ、中途半端に生きてんなあ……」と言ったのでした。「何言ってるの。生きてるのに完全も中途半端もないの。ただ、

生き続けていることだけでいいの。十分なんだよ。」

「……わかった。病院、早めに行くね。義母さんたちには、まだ言わなくていいよね?」

「そうだね。いいかもね。」
「そんなやりとりから数日後、
「今から病院行ってくる」というメールがありました。「頑張って」でもないし、「気を楽に」でもないし……と迷った挙げ句に「あたたくして行っておいで」と返信しました。

たとえ帰ってこなくてもいいのです。ここを卒園していった子どもたちが孤独でなければいいのです。彼らの心に「誰か」が居てくれればいいのです。「誰もいない」と思ってしまう一歩手前で思い出してもらえる「誰か」に私が、私たちがなれるよう、そんな生活を創っていきたく願っています。

私たちができることは本当に小さいです。しかも、経過も結果も数値などで明らかにされるものは何一つありません。ただ願い、自己嫌悪につぶれそうになりながら子ども達の傍に居ることしかできません。

どうかこの一年も、私たちの間違いができるだけ少なくて済むよう、見守り続けていただけませう、よろしくお願ひします。





明けましておめでとうございます。
 今年も光の子どもの家では、基準外職員
 確保のためのバザーを6月1日(土曜日)に
 行う予定です。つきましてはバザー物品の
 ご協力をよろしくお願い申し上げます。



～光の子どもの家バザー実行委員会～

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2012年10月1日▶11月末日

2012年10月現在

幼児4名 小学生16名 中学生8名 高校生7名 計35名

- 6日 幼稚園運動会 かわいい幼稚園児たちの精一杯の頑張りを多数のカメラマン(職員)が撮影 多すぎる写真に苦笑い
- 10日 赤十字奉仕団の皆さまによる除草奉仕 光の子どもの家後援会によるそば会 長年にわたるご支援に心より感謝
- 20日 刀川和也監督の映画「隣る人」の文化庁文化記録映画部門大賞授賞式へ菅原理事長が出席
- 26日 初代理事長福島勲先生記念礼拝 私たちの取り組みをもう一度振り返って設立の理念を確認
- 11月
 - 3日 第100回理事会 第28回感謝の集い 今年も多数のご支援者の方々が来訪して下さり感謝を伝える機会となった 今後も皆さまからのご指導ご支援を切に願う

- 6日 評論家の芹沢俊介氏を迎えて第1回施設内研修 貴重な学びと振り返りの機会を与えられた 感謝
 - 16日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝説教奉仕感謝
 - 20日 第2回施設内研修
 - 30日 若月健吾牧師による職員礼拝 司式説教奉仕感謝
- <10月11月の物品ご寄贈者さま>
 大友孝子 川口雅資 甲子敏江 中村久美子 林圭子 榎本貴夫 松野節子 片山和恵 宮本美和 黛執 松本明子 藤田陽子 飯塚毅 仲澤正秋 柿内常盤 富士見ヶ丘キリスト教会 小山田貴子 千代田教会 吉羽良美 渡辺正男 田中和子 杉山和俊 市川美津子 セカンドハーベストジャパン 他多数の各位さま
 ☆昨年中も大変多くの方々にお世話になりました。今年もよろしくお願い致します (洋)

////// ———— 反 射 光 ———— ////

☆明けましておめでとうございませす。旧年中のご支援に篤くお礼申し上げます。今年もよろしくお願ひ致します☆新たな年を迎えて光の子どもの家はにぎやかに過しております。近年、多くの卒園生が実家に戻ってくるようにして、光の子どもの家で正月を過ごします。元氣そうな顔を見るとホッと、近況を聞いて大変そうであればソワソワと落ち着かず……しかし卒園していった子どもたちは年齢からすればもう大人です。いつまでも子ども扱いするなど言われそうです☆小児科医の熊谷晋一郎さんは自らの脳性マヒという障害を通して「自立とは実は膨大なものに依存しているのに、私は何にも依存していないと感じる状態なのだろう」と、あるインタビューに答えています。依存の完成型が自立だとも言えます☆「隣る人」という造語は光の子どもの家の理念から生まれました。出会った子どもに寄り添い続けるという意志を表す言葉です。この年も達成感よりは無力感、悩み、戸惑い、迷うことのほうが多いでしょう。何度でもこの基本理念に立ちかえつてまた新たな一歩を子どもたちと共に踏み出していく、そんな年にしなければと思います。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。(洋)